

平成27年3月定例記者会見要旨（平成27年2月24日開催）

1. 平成27年度予算の概要について

「坂出に生まれてよかった」「坂出に住んでいてよかった」、さらには「坂出に住みたい」と思っただけのようなまちづくりのためには、限られた財源の中で施策の選択と集中を図り、創意工夫を凝らしながら、「市民本位」「市民参加」「市民対話」による市政運営を継続していく必要がある。

また、事業の財源を捻出するためには、企業誘致などによる歳入確保対策に粘り強く取り組んでいくとともに、行財政改革においては、これまでの「量」的な改革を継続しつつ、行政を経営するという新たな視点に立ち、限られた経営資源の最適配分を行う中で、「質」の向上に向けた改革を図り、市民との共働を推進するため「さらなる市民参加」の施策を着実に実行しなければならない。

予算要求に当たっては、持続可能な財政構造の確立に向け、優先順位を踏まえた事務事業の選択を徹底し、市民ニーズに即した施策を要求すること、また、投資的経費については、国・県の予算編成の動向に留意するとともに、事業の緊急性、投資効果等を十分に検討し、真に市民生活の質の向上、地域の活性化に資する事業に限定するよう指示したところである。

これらを踏まえて予算編成を行った結果、まず、歳入においては個人市民税や償却資産をはじめとした固定資産税の減少により、市税全体では前年度に比べ3億2,870万円の大幅な減収となった。

一方、歳出では、退職手当をはじめとした職員人件費が減額となっているものの、国民健康保険特別会計などへの繰出金の増加や、安全で安心なまちづくり実現のための同報系防災行政無線の整備などにより、投資的経費については、13億3,797万9千円と大幅な増額となっている。また、増大する社会保障費への適切な対応や特別会計等への財政支援、さらには防災対策経費への重点配分、企業立地促進に向けた助成措置など、多額の一般財源を要する事務事業への対応を講じた結果、職員退職手当基金から約7,900万円の繰入を行うとともに、なお生じた財源不足約8億4,200万円を財政調整基金からの繰入金により対応せざるを得ない非常に厳しい予算編成となった。

一般会計の予算総額は、231億8,800万円で前年度に比べ11億1,020万円の増、率にして5%の増となっている。

一方、特別会計では、166億1,231万6千円、企業会計としては、病院事業会計で50億6,901万2千円、水道事業会計で21億5,297万円をそれぞれ計上した。